



1周300歩の小さな商店街の挑戦。



西山商店街

名古屋市営地下鉄東山線「星ヶ丘駅」から徒歩で約15分。緑豊かで子育て世帯にも人気のエリア、名古屋市名東区にある西山商店街は、1周300歩の小さな商店街です。古くから地域の人々の生活を支え、愛されてきた西山商店街も、2015年には営業する店舗はわずか5軒。前を向くしかない——決意を新たにすなか、「ナゴヤ商店街オープン」の実施商店街に採択されたことが大きな契機に。どん底からの挑戦が、今も新たな息吹を呼び込み続けています。



愛知県名古屋市名東区西山本通2丁目



事例集は「あいち商店街空き店舗情報ナビ」でもご覧いただけます

NISHIYAMA SHOTENGAI



1961 西山商店街誕生

市直轄の土地区画整理事業が施行され、日本住宅公団が昭和33～36年にかけて住宅団地を4カ所、合計1568戸の住宅を建設。昭和35～36年には西山小学校と西山商店街もつくり、新しい街が誕生した。商店街は東西それぞれ、ひとつながりの長屋になっている。



昭和32年「西山本通2」の交差点を西側から、現在の郵便局の角を見る。道路の整備が始まったばかりで、建物もない(写真提供:西山小学校)



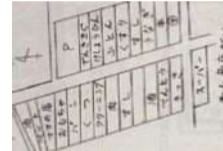
昭和36年の完成したばかりの西山商店街。アーケードはまだない(写真提供:名古屋市市政資料館)

1979 アーケード設置

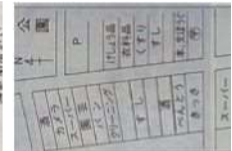
昭和30～40年代、盛況な頃。



昭和59年～60年頃の西山商店街。今と変わらないアーケードの様子



昭和57年商店街の店舗一覧



平成3年の商店街の店舗一覧(写真・資料提供:西山小学校)

当時のアーケードは小豆色!
現在は緑色、老朽化が進み、天井に穴...

1992年頃は
まだ全店舗が開店していたそう



2015頃

営業している店舗は5、6軒ほどに。
星ヶ丘や長久手市、日進市の大型商業施設へ客は流れていった。

2017年、種田さんが理事長に就任。

あまりの不振に振興組合を閉めることも考えたが、アーケードもあり簡単に解散もできなかった。「やるしかない!」と切り替える

2018 ターニングポイント ナゴヤ商店街オープンに手を挙げる



様々な属性の参加者と一緒に、模型を見ながらディスカッション。西山商店街にある空き店舗に何かあるといいか、それがどうまちに波及効果を生むのかを検討。

若い世代や外部の人が参加・参入!価値観の違いから、大丈夫かなと心配することや、わかりあえない苦しさ、葛藤もありました。でもこれからの商店街には「新陳代謝も大切」と思いなおして、見守りサポートすることにしました!(種田理事長)

2019 取組成果 「ニシヤマナガヤ」オープン

メディアにも取り上げられる

工事費など補助を受け、築約60年の空き店舗をリノベーションした複合施設。

かなりタイトなスケジュール!震える思いで不動産賃貸契約。仲間集め(テナント)にもハラハラ(植村さん)



波及効果 店舗オープン

- ・高級食パン(→現在撤退)
- ・八百屋(→現在撤退)
- ・未完美術館/ニシヤマナガヤ奥(2020)
- ・音楽教室(2020)
- ・タイ料理(2021-2023)
- ・中華(→現在閉業)
- ・暮らせる図書館(2022)
- ・コトづくり研究所(進行中)

波及効果 イベント実施

「ノキノイチ」



ニシヤマナガヤができて、SNSを見て来てくれるお客さんが増え、客層が変わってきました。新しいお店のオープンで活気づく一方、地元のお客さんに来てほしいというジレンマも(種田理事長)

2020年コロナ禍でイベントが中止になるなかでも、できることを考え実施

まずは3年目を乗り越えられるかどうかが壁!(種田理事長)

2020 2回目の ナゴヤ商店街オープン参加

前は参加者の1人だったニシヤマナガヤ植村さんがアドバイザーとして関わる。

2021 取組成果 「Reading Mug」オープン



工事費など補助を受け、1回目と同様に広いテナントを複数店で活用する案が採用され、セレクト書店と焼き菓子店が入居。文教エリアで、商店街の隣には1200名の児童が通うマンモス小学校も。7000世帯2万人の地域に、「こども」と「本」のテーマが合う。

波及効果 イベント実施

「ニシヤマピクニック」



SNSも活用して、イベントは盛況。星ヶ丘テラスとコラボするほどに

イベントをやれば人がたくさんくる、イベントのおかげでつながる縁もある。でも日常の商売で手一杯、人手不足という課題も...



今後の課題

- ・住宅になった元店舗や倉庫利用の元店舗はあるが、空き店舗、賃貸可能物件は少ない
- ・アーケードの修繕が必要
- ・長屋の商店街、将来の建替え

課題は多いが「とにかく西山が好き!」の気持ちで、地元へ愛される商店街を目指す。



ナゴヤ商店街オープンとは

2018年、名古屋市経済局地域商業課の『商店街の商業機能再生を図るためのモデル事業』としてスタート。「空き店舗リノベーション事業」「店舗連携イノベーション事業」と「まちコーディネーター養成講座」を通して、名古屋市内の商店街の活性化に取り組むとともに、まちのサポーターやプレーヤーの育成を目指す事業です。西山商店街は初年度の2018年と2020年に「空き店舗リノベーション事業」の実施商店街として採択されました。

※「空き店舗リノベーション事業」では、これまでに名古屋市内8商店街9軒のお店がオープン、2軒のプロジェクトが進行中です(2023年11月現在)。



再起のきっかけとなった「ナゴヤ商店街オープン」

>> 種田

昔は西山商店街といえば、生肉、鮮魚、鰻、寿司、美容院、洋品店から金物屋まで、生活に必要なものはなんでも揃い、朝市を開けば開店前から500人も並ぶほど活況を極めた商店街でした。ところが私が理事長を引き継いだ2015年は、営業している店は5軒だけ。何十年とやってきたお店が、代替わりもあって、力尽きてどんどん閉めていく一方で、この先どうしようと、それぞれのオーナー家族が思い悩む時期でした。建物自体も老朽化してくるし、昭和54年に設置したアーケードの補修が必要な時期になっても、アーケード自体は振興組合のものだから、解体するにしても修繕するにしてもお金が足りない。アーケード問題を解決しないことには、いくら寂れようが解散もできない状態で、私はジリ貧になっていく現状を見て、西山商店街はアーケードとともに沈没するんじゃないかと思っていました。そんな最中の2018年に、まちづくりを応援していた銀行マンのアドバイスで、ナゴヤ商店街オープンに参加することになりました。解散もできないなら前に進むしかない。外部の人の力を借りて、ダメもとでトライしてみようと、どん底だったからこそこの挑戦でした。

>> 植村さん

当時、僕は自宅マンションの一室を設計事務所として独立開業していました。妻は洋菓子店やレストランでパ

ティシエとして働いていて、どこかにふたりの店を持ちたいね、という話が出ていました。暮らしていた名東区内で物件を探しているなか、まちとしてエリアの特徴が出しやすいのと、建築家という仕事なのでまちづくりに関わられたらいいなという思いがあったので、西山商店街の空き店舗は気になっていました。ちょうどそんな頃にナゴヤ商店街オープンの話を知って、これはチャンスだと思い、すぐに参加申込みをしました。ただ、初年度は2018年10月にナゴヤ商店街オープンがスタートして、年明けの1月中に賃貸契約を結び、3月末までに補助対象の工事を終わらせなければいけないという、非常に過酷なスケジュールでした。しかも西山商店街は1区画が大きい上に、ニシヤマナガヤが入った物件は内階段しかなく、1階2階をまとめて借りることが条件でした。設計事務所と妻の焼き菓子店だけでは広いスペースを持って余すし、家賃の負担も大きいので、ここを借りていいものかどうか、かなり迷いました。ナゴヤ商店街オープンがなく、ただこの物件を内見していたら、きっと借りていなかったと思います。ナゴヤ商店街オープンを通じて、複合店舗というアイデアが出て、いろいろな構想を揉んでいくうちに、それならやれるかな、やってみようかなという気持ちになりました。とはいえ1月の段階では、複合店舗のイメージはありつつも、まだ誰も集まっていないなかでの賃貸契約だったので、この決断が一番苦しんだポイントでした。



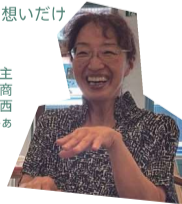
地域のコミュニティとしての「本屋」という文化に惹かれて

キムラナオミさん
「Reading Mug」店主
でグラフィックデザイナー



自分を突き動かすのは、西山が好き、という思いだけ

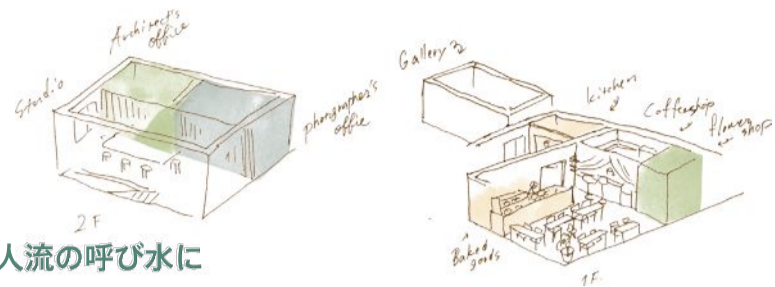
種田千早さん
駄菓子屋「水都軒」店主
で商店街の理事長。商店街に
来た当初は「西洋菓子工房ていんかあ
べる」を営業



街に開いたリビングのような
憩いの場を作りたいかった

植村康平さん
植村康平建築設計事務所主
宰、ニシヤマナガヤの管理人
で商店街の副理事長





街の“リビング”が、新たな人流の呼び水に

>>植村さん
ナゴヤ商店街オープンの初年度だったため、名古屋市も僕たちも誰もがみんな手探り状態で、スケジュール的に厳しいところがありました。翌年からは経験を踏まえて、もっと期間を伸ばすなどアップデートされていきました。でも勢いで走るよさもあって、複合店舗にしたことで自分の仕事の幅や人間関係も広がり、間違いなくやってよかったと感じています。僕の設計事務所と妻の「焼菓子moegihiro」の次に決まったのは、「草木花の店たんぼぼ」の小川由恵さんです。以前から商店街の軒先を借りて花売りをしていて、自分の店を持つのにシェアスペースのサイズ感がちょうどいいということで仲間になってくれました。通りに面して花とグリーンがあるので道行く人の目にも止まり、空間の癒しとしても、とても大事な存在です。次に、素材にもこだわった丁寧な焼菓子を用意する上で、おいしいコーヒーを提供して下さる方を探していたところ、ちょうど独立を模索していた内海雄二さんという理想的な方との出会いがありました。そして誕生したのが、スペシャルティコーヒーに特化した専門店「StoryCoffee」です。ニシヤマナガヤのコ

ンセプトを「街のLiving(リビング)」として、1階は通りに向けて大きく開いた窓側にイートインスペースを設け、コーヒーや焼き菓子をそれぞれ注文して自由にくつろいでもらえる空間を作りました。2階は設計の仕事で付き合いのあるイリエ制作所さんに相談にのってもらい、オーダーキッチンのショールームを兼ねたキッチン付きレンタルスペースを作ることができ、料理教室や造形教室などに使ってもらえています。レンタルスペースがあると、イベントごとに客層の違う方たちが西山を訪れてくれるので、商店街にも新たな人の流れをもたらすなど波及効果が生まれています。それにオーダーキッチンが施工後の現場を見てもらう機会が作りやすいので、自分のお客さんにショールームとしてご案内できる場所ができて、設計の仕事にもプラスになっています。物件契約時には借り手のあてもなくスタートした複合店舗計画でしたが、出店者もお客様もさまざまな年代や地域の人が集まってきて、たくさんの相乗効果が生まれる場となっています。

文教エリアに多様性を伝える本屋とチャリティ文化を

>>キムラさん
私は知り合いのアンティークショップが出店すると聞いて、2020年10月のノキノイチに遊びに来たのが、西山商店街との出会いでした。

>>植村さん
ノキノイチは、コロナ禍で商店街の夏祭りができなくなった代わりに、軒先を使ってなにかできないかと考えた企画です。

>>キムラさん
円頓寺商店街の本のイベントに初期から出店したり、大須商店街に住んでいた時期もあったり、いつか商店街の片隅でアトリエ兼本屋を開業できたらな、という願望はあったのですが、どちらも人気の商店街で片隅でもお家賃が高くて(笑)。2018年にオンラインショップを開く傍ら、本を売るだけでなく、地域のコミュニティとしての本屋という存在に魅力を感じていたため、どこかにいい場所がないかと探していました。それまでも西山を車で通りがかったことはあったのですが、商店街という認識がありませんでした。でもノキノイチに来てみたら、レトロなアーケードがあって、歩道が広くて、周りに緑もたくさんあり、郊外ののびのびした雰囲気がとても心地よかったです。しかも子どもたちの通学路で、近くに大学やインターナショナルスクールがあり、私が扱う洋書や絵本とすごく相性のよい地域だと感じました。そこでナゴヤ商店街オープンのチラシを見つけて、これは!と思

い、エントリーしました。初めは「いずれ店を持てたらな」くらいの気持ちで参加しましたが、ワークショップの終わり頃には、この場所の面白さや環境のよさ、地元の方たちとのつながりもできて、せっかくの縁を大事にしてここで挑戦してみようという気持ちになりました。来てくれるお客様のなかには留学や海外駐在の経験がある人など、英語に興味のある方が多く、お店を始めてから、この地域の多様性や文教地区の特性と、私が目指す書店のニーズのマッチングを実感することが多いです。本とともにイギリスのチャリティ活動や海外の文化を伝えられたらと思い、様々なイベントや展示も行っています。

>>種田理事長
キムラさんや植村さんのように、商店街は自分の店だけではなく、みんなで豊かになっていく気持ちが大切だなと思います。商店街に人が集まれば、自分の店も元気になる。いまはSNSの集客でいろいろなところから人が来てくれるけど、商店街のあるべき姿は、やはり地元密着が第一義。商店街オープンをきっかけに新しい店ができて、西山に注目してくれる人が増えた分、地元のために何ができるかを考えることが改めて大切だと感じています。ひとり店主の形が増えたことで、それぞれ自分の店で忙しいなか、地域ボランティアに動ける人材を確保することがすごく難しいです。オーナー会もいろんな世代が混ざって、意見をまとめるのも一苦労(笑)。でも誰も取り残さずに、これからも商店街一体で取り組んでいきたいと思っています。

